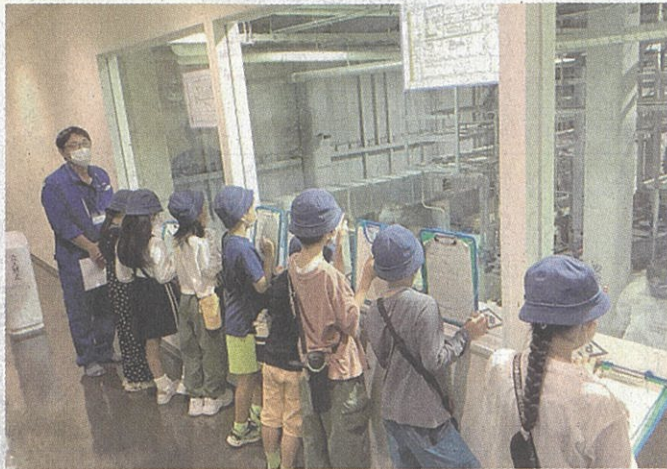


# 県南・県東

## 児童迎え産廃工場見学

### 松伏の 適正処理の重要さ伝える



関東を中心に産業廃棄物の収集運搬と中間処理を担う東武商事(本社・松伏町、小林増雄社長)は、東京都板橋区立志村小学校の児童約60人を迎えて環境教育を盛り込んだ工場見学を行った。次世代を担う子どもたちに、一人一人

水処理施設「松伏スマート・リサイクル・システムズ(MSRS)」を見学する小学生ら―松伏町の東武商事

容器を破砕したかけら入りのパーツを使ったキーホルダー作りに挑戦。使い捨てずに資源としてリサイクルする「サーキュラーエコノミー」について楽しみながら学んだ。

関東を中心に産業廃棄物の責任を持つて環境を守る行動を起す意識の向上を図るのが目的。同社の取り組み事例を分かりやすく理解できるように、子ども向けにアレンジして構成した。

続いて、産業廃棄物処理のアニメーション動画を視聴。工場などから排出される汚水の適正処理によって、持続可能な開発目標(SDGs)にも掲げられる「海の豊かさ」や「陸の豊かさ」を守る役割を同社も担っていることへの理解を深めた。

同社の水処理施設「松伏スマート・リサイクル・システムズ(MSRS)」も見学した。受け入れた汚水を「凝集沈殿」という処理方法で固液

分離し、その後脱水処理を行い、最終的に液体は下水道へ放流し、固体はセメント原料や路盤材などにリサイクルや理め立て処理される工程の説明を受けた。

小学生からは「捨てられた物をリサイクルしたり環境にやさしい仕事をしていてすごいと思った」「今の環境問題を教えてもらったのでさらに調べてみたい」などの感想が寄せられた。

工場管理部企画室の吉田尚史さんは「企業が事業活動を行えば、必ず廃棄物は発生する。それを適正に処理することでよい環境が保たれ、産業廃棄物処理業が重要な役割を果たしていることを小学生に伝えていきたい」と話していた。同社では引き続き小学校での環境教育の出張講座などを推進していく方針。

(小林義治)

## 福祉機器触れて体験代

スズメの群れに混じった白い鳥。白岡市西の会社員長島千泰さん(59)が飛来し、お茶の間を和ませている。白色のスズメが現れたのは今年1月

長島さんは「最初はどこからか逃げてきた鳥かと思っていた。毎朝来るので、可愛くなってしまう、見ているとほっとする。いつまでも元気で過ごしてほしい」と話した。(橋本浩佑)

社内従業員向け乗合制度導入

本サービスは、社内の営業職社員を専属の運転手が運転するミニバンで、顧客先まで送迎するもの。これまでは、営業社員が1人1台の軽自動車を運転し移動していた。サービスの導入で、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減による環境対策などが期待できるという。

同局は大宮西署など地域安全に関する協定を締結しており、同サービスの運行による地域巡回で、安心なまちづくりにも寄与するとしている。

同局は導入に合わせ、さい

たまし市大宮区で、出発式を実施。小河原康弘局長は「Masの導入を通じて持続可能な社会の実現を目指す。将来的には、免許返納者など高齢者の方々を含む交通弱者のための安心、安全な移動手段を提供し、「地域の足」としての役割を果たしていきたい」とコメントした。

従業員向けライドシェアサービス導入による出発式(同社提供)



広報お

全戸

クリック 英

本社 さいたま市北区吉野町2128213  
編集局 TEL 048・795・9161  
FAX 048・653・9040

桶川市は来